

音楽 I

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	J②	
使用教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)			副教材等			履修	必修修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>歌唱、器楽、鑑賞、創作など様々な形態での音楽活動を行います。活動する上で必要な基本的な音楽理論(楽典)を理解し、日本に限らず世界各国の音楽に親しんでいきます。選択者数によって授業内容を変更させることがあります。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 基本的な楽典を理解できる。 音楽に対する興味・関心を深め意欲的に活動できる。 音楽的感性・技能を身に付け、創造的に表現し、根拠を持って批評することができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 音楽に興味があること。 音楽に係る進路を検討している生徒。 	
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	・リエンテーション ・歌唱 ・ポピュラーソング	・楽典(年間通して) ・校歌 ・ひまわりの約束	<ul style="list-style-type: none"> 読譜、記譜 暗唱 発声法、姿勢、記号の意味、ハーモニーの確認 				
	5月	・イタリアの音楽(歌唱、鑑賞)	・'O sole mio ・Caro mio ben	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の解釈、表現の工夫 カンツォーネについて 				
	6月	・器楽	・ギターに挑戦 ・弾き歌い	<ul style="list-style-type: none"> ギター音楽の鑑賞、ギターの構造 調弦、奏法、音階練習、練習曲 器楽アンサンブルについて 				
	7月	・鑑賞、音楽史	・西洋音楽史	<ul style="list-style-type: none"> 各時代ごとの鑑賞 				
	9月	・器楽、鑑賞	・篠笛	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、記号の確認 運指、タンギング 				
	10月	・諸民族の音楽(鑑賞)	・諸民族のリズム、楽器	<ul style="list-style-type: none"> 各地域ごとに鑑賞 				
	11月	・ドイツの音楽(歌唱、鑑賞)	・Heidenröslein	<ul style="list-style-type: none"> 発声法、姿勢の実践 				
	12月	・歌唱 ・アンサンブル	・2重唱「翼をください」 ・Plymouth Rock	<ul style="list-style-type: none"> ハーモニーの練習 読譜、記号の確認 				
	1月	・鑑賞、音楽史	・西洋音楽の鑑賞 歌劇「カルメン」	<ul style="list-style-type: none"> 歌劇について 				
	2月	・創作	・創作、編曲	<ul style="list-style-type: none"> 記譜法の基礎 				
	3月	・合唱	・合唱	<ul style="list-style-type: none"> パート練習 合唱 				
学習方法	<p>【予習】 次の時間に学ぶ作品の譜読みや、記号の意味などを調べておきましょう。 【授業】 定期考査を実施しないため、授業での取組が重要です。活動が中心ですから、積極的に楽しく活動しましょう。 【復習】 実技は個人練習が必要な場合があります。また、普段からなるべく様々なジャンルの曲を聴くようにしてください。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽学習に取り組もうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。 		<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。 	
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期 実技点：7割 B：3割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度(発表等)、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		第3学期 実技点：7割 B：3割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度(発表等)、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		年度末 1・2・3学期の平均	
備考	<ul style="list-style-type: none"> 各自でファイルを用意してください。 							

音楽Ⅱ

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	J①群	
使用教科書	MOUSA 2 (教育芸術社)			副教材等			履修	必履修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
様々な活動を通して基本的な知識を広げ、将来音楽を深く楽しむための力を伸ばします。また、音楽的な知識が必要となる進路のために基本的なソルフェージュを行い、楽典の理解度の定着を目指します。				<ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素を理解できる。 音楽の様々な形態を理解し、工夫して表現できる。 楽曲の背景を理解し、根拠を持って批評することができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 教育関係（特に幼児教育、小学校教諭、中・高音楽科教諭）や音楽に関係する進路を検討している生徒を対象としています。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	・オリエンテーション ・ソルフェージュ	・楽典（年間通して） ・ソルフェージュ（年間通して）	・読譜 ・記譜				
	5月	・歌唱	・ハナミズキ ・早春賦 ・Sehnsucht nach dem Frühling	・発声法、姿勢、記号の意味 ・歌詞の内容 ・ドイツ語の発音				
	6月	・鑑賞	・西洋音楽史	・各時代ごとの鑑賞				
	7月							
	9月	・歌唱	・椰子の実 ・Nei cor piu non mi sento	・発声法、姿勢、記号の意味、歌詞の内容 ・日本歌曲、イタリア歌曲				
	10月	・鑑賞	・日本の伝統芸能	・歴史、文化、物語の内容				
	11月	・器楽	・三線	・楽器について、鑑賞 ・練習、演奏				
	12月							
	1月	・歌唱、鑑賞	・夢やぶれて ・ミュージカル「レ・ミゼラブル」	・歌詞の内容 ・ストーリー、音楽と踊り				
	2月	・合唱	・道	・発声法の確認 ・パート練習 ・合唱				
	3月							
	学習方法	<p>【予習】 次の時間に学ぶ作品の譜読みや、記号の意味などを調べておきましょう。</p> <p>【授業】 定期考査を実施しないため、授業での取組が重要です。活動が中心ですから、積極的に楽しく活動しましょう。</p> <p>【復習】 実技は個人練習が必要な場合があります。また、普段からなるべく様々なジャンルの曲を聴くようにしてください。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	・音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽学習に取り組もうとする。		・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。		・創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。		・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、価値判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。	
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期 実技点：7割 B：3割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度（発表等）、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		第3学期 実技点：7割 B：3割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度（発表等）、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		年度末 1・2・3学期の平均	
備考	・各自でファイルを用意してください。							

音楽Ⅲ

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	P②群	
使用教科書	音楽Ⅲ（教育出版）			副教材等			履修	必修修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
1、2年次で学んだ内容をもとに、様々な活動を通して基本的な知識を深め、将来音楽を愛好するための力を伸ばします。また、音楽的な知識が必要となる進路のために、楽典の理解度の発展を目指します。				<ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素を理解し、主体的に表現に活用できる。 音楽の様々な形態を理解し、工夫して表現できる。 楽曲の背景を理解し、根拠を持って批評することができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 教育関係（特に幼児教育、小学校教諭、中・高音楽科教諭）や音楽に關係する進路を検討している生徒を対象としています。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	・リエンション	・楽典（年間を通して）	・音階、和声				
	5月	・ポピュラーソング	・ふるさと ・Stand alone	<ul style="list-style-type: none"> ハーモニーの確認 発声法、姿勢、記号の意味 				
	6月	・イタリア歌曲	・Nina ・Lascia ch'io pianga	<ul style="list-style-type: none"> イタリア語の発音、姿勢 歌詞の内容 				
	7月	・鑑賞	・印象派の音楽	<ul style="list-style-type: none"> 牧神の午後への前奏曲（ドビュッシー） マ・メール・ロワ（ラヴェル） 				
	8月	・器楽	・リコーダーアンサンブル	<ul style="list-style-type: none"> 読譜、記号の確認 練習、発表 				
	9月	・日本歌曲	・北秋の ・初恋	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の発音、姿勢 歌詞の内容 				
	10月	・創作	・打楽器アンサンブル	<ul style="list-style-type: none"> リズムパターンを作る 練習 				
	11月	・ドイツ歌曲	・Die Forelle ・Ave Maria	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の発音、姿勢 歌詞の内容 				
	12月	・鑑賞	・西洋音楽史	<ul style="list-style-type: none"> 作曲家について 個人研究 報告会、鑑賞会 				
	1月	・歌唱	・卒業写真 ・唱歌	<ul style="list-style-type: none"> 発声法、姿勢 蛍の光、仰げば尊し 				
	2月							
	3月							
学習方法	<p>【予習】 次の時間に学ぶ作品の譜読みや、記号の意味などを調べておきましょう。</p> <p>【授業】 定期考査を実施しないため、授業での取組が重要です。活動が中心ですから、積極的に楽しく活動しましょう。</p> <p>【復習】 実技は個人練習が必要な場合があります。また、普段からなるべく様々なジャンルの曲を聴くようにしてください。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽学習に取り組もうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。 		<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。 	
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期		第3学期		年度末	
		実技点：7割 B：3割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度（発表等）、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		実技点：7割 B：3割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度（発表等）、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		1・2・3学期の平均		
備考	<ul style="list-style-type: none"> 各自でノート（5線の音楽ノートが望ましい）を用意してください。 							

美術 I

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	J②群	
使用教科書	美術 I (光村図書出版)			副教材等			履修	必履修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>絵画、彫刻、デザインなど、美術の様々な分野の基礎的な創作活動を行います。自分が感じたこと、考えたことを作品に表現したり、鑑賞活動を通して作品から感じたことを言葉で表現したりするなど、美術に親しむ体験をしていきます。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆、絵の具、筆など基本的な用具の使い方を理解できる。 基本的な美術の感性・技能を身に付け、創造的に自己表現することができる。 友人の作品から良さを感じ取ることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 音楽 I、書道 I を選択する場合は同時に履修することはできません。 	
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	・オリエンテーション ・デザイン	・美術 I の学習と意義 ・鉛筆削り	・美術 I の年間の学習について ・デッサン用の鉛筆をナイフで削る				
	5月	・絵画	・鉛筆デッサン (基本形態) ・鉛筆デッサン (人体)	・鉛筆の基本的な使い方 ・物をよく観察する ・仕上げ、相互鑑賞				
	6月	・鑑賞	・レオナルド・ダ・ヴィンチ	・遠近法について学ぶ				
	7月	・デザイン	・人権ポスター	・夏休みの宿題のアイデアを練る				
	9月	・デザイン	・三原色によるデザイン画	・アクリル絵具の特性と色料の三原色を学習する ・色の重なりを意識して表現する ・仕上げ、相互鑑賞				
	10月	・絵画	・洛中洛外図 (南予版)	・日本の伝統的な絵画を知る ・平面から立体作品へとスムーズに移行させる ・仕上げ、相互鑑賞				
	11月	・鑑賞	・作家の人生と作風 俵屋宗達	・俵屋宗達と琳派との関係について学ぶ				
	12月							
	1月	・デザイン	・ライトスクラッチ	・イメージを膨らませアイディアスケッチをする ・光り方を意識してスクラッチで表現する ・仕上げ、相互鑑賞				
	2月	・鑑賞	・作家の人生と作風 イームズ	・インテリアデザインに親しむ				
	3月	・まとめ	・美術 I の1年を振り返る	・1年間の反省と感想				
	学習方法	<p>【予習】 準備物を忘れないようにしましょう。作品のイメージを考えておきましょう。</p> <p>【授業】 作品制作が中心になります。作品は、上手い・下手よりも、一生懸命取り組んだかどうか重要です。集中して制作活動に取り組み、自分の気持ちを作品で精一杯表現しましょう。</p> <p>【復習】 作品の進み具合が他の人より遅れている場合は、授業外でも制作を進めておきましょう。</p>						
評価の観点・評価方法	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	<p>・美術を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、創造的な表現と鑑賞の能力を身に付けようとしているか。</p>		<p>・感性や想像力を働かせて自然や身の回りの造形、芸術作品などのよさや美しさを感じ取り、主題を生成し、表現を構想しているか。</p>		<p>・創造的な表現をするために、表現材料や表現形式を選択し、効果的に生かす技能を身に付けているか。</p>		<p>・美術について、作者、生活や自然との関連、日本の美術の歴史などを理解し、美術作品などのよさや美しさを味わっているか。</p>	
	<p>評価方法 ※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A：主に考查による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>第1・2学期 実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。</p>		<p>第3学期 実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。</p>		<p>年度末 1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価します。</p>	
備考								

美術Ⅱ

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	J①群
使用教科書	美術2(光村図書出版)			副教材等			履修 必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
美術Ⅰで学んだことを踏まえてさらに高度な創造活動を行います。多様な手法を学び、自分に合った表現方法を追求していきます。また鑑賞においては、作品との対話からより豊かな鑑賞と美術文化への理解を目指します。			<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技術に加えて様々な技法を習得し、用具や材料も効果的に使える。 ・様々な表現に目を向け、鑑賞を楽しむことができる。 ・美術文化への理解を深められる。 			・1年次に美術Ⅰを履修した生徒に限ります。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	・リエンション	・美術Ⅱの学習と意義	・美術Ⅱの年間の学習について			
	5月	・絵画	・日本画(金屏風)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本画の表現について学ぶ ・没骨法、たらしこみなど日本画独自の技法を体験する ・立体としての屏風の面白さを味わう ・仕上げ、相互鑑賞 			
	6月	・鑑賞	・作家の人生と作風 石内 都	・写真作品を味わう			
	7月						
	9月	・絵画	・抽象画	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象表現への理解 ・画材と表現方法の違いによる効果を体験する ・仕上げ、相互鑑賞 			
	10月	・デザイン	・イースターエッグ	<ul style="list-style-type: none"> ・球面におけるデザインを考える ・細密描写に挑戦する ・仕上げ、相互鑑賞 			
	11月	・鑑賞	・作家の人生と作風 マーク・ロスコ	・抽象表現主義とアメリカの美術文化について学ぶ			
	12月						
	1月	・彫刻	・自室の表札を造る	<ul style="list-style-type: none"> ・モデリングとカービングの違いを理解する ・構成や配色を工夫し美しいデザインを考える ・仕上げ、相互鑑賞 			
	2月	・鑑賞	・映像メディア表現 『デザインあ』を見る	・映像表現の技法や仕掛けについて考える			
	3月	・まとめ	・美術Ⅱの1年を振り返る	・1年間の反省と感想			
学習方法	<p>【予習】 準備物を忘れないようにしましょう。日頃から作品のイメージを考えておきましょう。</p> <p>【授業】 作品制作が中心になり、計画的に作業を進めていけるように時間いっぱい集中して取り組みましょう。</p> <p>【復習】 作品の進み具合が他の人より遅れている場合は、授業外でも制作を進めておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> ・美術を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、主体的に創造的な表現と鑑賞の能力を身に付けようとしているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせて自然や身の回りの造形、芸術作品などのよさや美しさを深く見つめ、主題を生成し、表現を構想しているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・創造的な表現をするために、主題に合った表現材料や表現形式を選択し、効果的に生かす技能を身に付けているか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・美術について、作者、生活や自然との関連、日本の美術の歴史などを理解し、多様な視点から美術作品などのよさや美しさを味わっているか。
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A：主に調査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期		第3学期		年度末
		実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。		実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。		1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価します。	
備考							

美術Ⅲ

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	R①群	
使用教科書	美術3(光村図書出版)			副教材等			履修	必履修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
美術Ⅰ、Ⅱの学習を踏まえて自己のテーマを設定し、テーマに沿った表現方法で制作を進める。創造活動を通して様々な発見や驚きを体験し、表現能力や技能を一層高めるとともに、鑑賞を通して社会と美術の関わりや美術文化への理解をさらに深める。				<ul style="list-style-type: none"> 美術Ⅰ、Ⅱで学んだことを生かし、各自の研究テーマに沿って個性豊かに表現することができる。 1、2年次の学習を理解し、3年間のまとめをする。 			<ul style="list-style-type: none"> 2年次に美術Ⅱを履修した生徒に限ります。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	・オリエンテーション	・美術Ⅲの学習と意義	・美術Ⅲの年間の学習について				
	5月	・デザイン	・スクラッチグラス	<ul style="list-style-type: none"> インテリアデザインについて理解する 工程を踏まえた作業の在り方を考える 色の効果と統一感を意識して彩色する 仕上げ、相互鑑賞 				
	6月	・鑑賞	・作家の人生と作風 田中一光	・デザイナーの仕事と社会との関わりを考える				
	7月							
	9月	・絵画	・日本画	<ul style="list-style-type: none"> これまで経験した日本画の技法を生かし作品を作る 日本美術の表現の在り方を考える 下図をもと日本画を制作する 仕上げ、相互鑑賞 				
	10月							
	11月	・鑑賞	・作家の人生と作風 現代美術の在り様	<ul style="list-style-type: none"> 現代美術作品を鑑賞する 社会と美術との関わりについて考える 				
	12月							
	1月	・デザイン	・ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none"> これまで作ってきた作品をポートフォリオ化する 魅力的なポートフォリオについて考える 				
	2月	・鑑賞	・ポートフォリオの鑑賞	・鑑賞ノート、感想文				
	3月	・まとめ	・美術Ⅲの1年を振り返る	・1年間の反省と感想				
	学習方法	<p>【予習】 各自、制作に必要な準備物を忘れないようにしましょう。作品のイメージを考えておきましょう。</p> <p>【授業】 3年間の総まとめですので、集大成になるよう、授業に集中して精一杯制作しましょう。</p> <p>【復習】 自主制作は、計画的に進めることが重要です、授業外でも課題意識を持っておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> 美術を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞に関心をもち、美術文化を尊重し、主体的に創造的な表現と鑑賞の能力を身に付けようとしているか。 		<ul style="list-style-type: none"> 感性や想像力を働かせて独創的な主題を生成し、芸術作品などのよさや美しさを深く見つけ、表現を構想しているか。 		<ul style="list-style-type: none"> 創造的な表現をするために、主題に合った表現材料や表現形式を選択し、効果的に生かす技能を身に付け創造的に表現しているか。 		<ul style="list-style-type: none"> 美術と国際理解において、美術の果たす役割を理解し、美意識を働かせて美術作品などのよさや美しさを創造的に味わっているか。 	
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末	
	<p>※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。</p> <p>A：主に考査による観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。		実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。		1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価します。	
備考								

工芸 I

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	S②群	
使用教科書	高等学校工芸 I (日本文教出版)			副教材等			履修	必修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
工芸の基本的な創造活動を行います。また、身の回りの工芸品に触れたり、使用したりすることで、工芸を身近に感じ、親しんでいきます。				<ul style="list-style-type: none"> 多様な工芸表現に触れ、基本的な技術・知識を身に付ける。 身の回りの工芸品に触れ、使用する喜びや美しさを感じる心情を育む。 			<ul style="list-style-type: none"> 設備の関係で10名程度とします。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	・ 刺エンテーション ・ 工芸 (木材)	・ 工芸について ・ 木象嵌 (筆箱づくり)	・ 工芸 I の年間の学習について				
	5月			・ アイデアスケッチを作成 ・ 象嵌の練習 ・ 加工 ・ 塗装 ・ 研磨と仕上げ				
	6月	・ 鑑賞	・ 完成作品の鑑賞	・ 制作した作品を相互鑑賞する				
	7月							
	9月	・ 工芸 (布・木材)	・ 木目込みまり ・ 木で制作	・ 木目込みについて学ぶ ・ アイデアスケッチと下絵を描く ・ 色の組み合わせを考える ・ 布を加工する ・ 木目込み作業をする ・ 仕上げ				
	10月							
	11月	・ 鑑賞	・ 完成作品の鑑賞	・ 制作した作品を相互鑑賞する				
	12月							
	1月	・ 工芸 (染色)	・ 紅型	・ アイデアスケッチをする。 ・ 紅型を作り、染め作業を行う ・ 仕上げ				
	2月			・ 制作した作品を相互鑑賞する				
	3月	・ まとめ	・ 工芸の1年を振り返る	・ 1年間の反省と感想				
学習方法	【予習】 服が汚れることがあるので作業しやすい格好 (体操服・エプロン) を忘れないように持参しましょう。 【授業】 刃物を使用するので、けがをしないように説明をよく聞き真剣に取り組みましょう。 【復習】 いろいろな道具や工具の名称を覚え、上手に使いこなせるように努力しましょう。							
評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	・ 工芸の創造活動の喜びを味わい、社会における工芸に関心を持ち、機能と美しさを考えて構想を練ろうとしているか。		・ 感性や想像力を働かせて形や色彩、材質などの造形要素や、求められる機能や条件、美しさを整理し制作の構想を練っているか。		・ 創造的な工芸の制作をするために必要な技能を身に付け、アイデアスケッチに基づいて創意工夫して制作しているか。		・ 工芸作品などの表現の工夫や日本の伝統と文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わい理解しようとしているか。	
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。		第1・2学期		第3学期		年度末	
	A: 主に考査による観点別評価 B: 主に授業等の活動による観点別評価		実技点: 7割 B: 3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。		実技点: 7割 B: 3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。		1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価します。	
備考								

書道 I

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	J②群	
使用教科書	書道 I (東京書籍)			副教材等			履修	必修修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」について表現方法を学び、実際に筆で書いていきます。「漢字の書」「仮名の書」については主に古典の臨書によって練習します。2学期には川高祭に出品します。				<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品の用筆、運筆、字形の特徴をとらえて臨書ができる。 ・線質、字形、全体構成などを工夫して自己表現ができる。 ・書を愛好する心情や態度、更に鑑賞能力を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に音楽 I、または美術 I を履修した生徒に限ります。 (1年次に書道 I を履修した生徒は選択できない。) 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	一 漢字の書	1 用具・用材 (文房四宝)	<ul style="list-style-type: none"> ・文房四宝の特性の理解とその選択による効果的な表現 ・良い姿勢と正しい執筆法 ・書道 I の目標と書写との関連 ・いろいろな線による表現の広がり (起筆の穂先の向き違いによるさまざまな線の表現など) ・書体の特徴と変遷 ・楷書の用筆法・運筆法・結構法 ・楷書の成立と唐の四大家 ・古典に基づく学習 (臨書) ・臨書・鑑賞 				
	5月		2 姿勢・執筆法					
	6月		3 書写の確認					
	7月		4 書写から書道へ					
			5 漢字の成立と変遷					
			6 楷書					
			7 落款と篆刻					
			8 行書					
			9 隷書					
			10 創作 (学んだ古典の特徴を生かして創作)					
	9月	〇川高祭に向けて	・川高祭出展作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の構想を練る (臨書か創作か、語句と書体の選定、作品の規模、全体構成など) ・作品制作、作品の完成と落款 ・展示準備 				
	10月	二 仮名の書	1 仮名の成立と用具・用材	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立、仮名の種類及び仮名用の筆・墨・紙 ・基本的な筆使い (縦の線・横の線、転折・円運動・結び) ・「いろは歌」を書く ・連綿のリズムや流れ ・臨書と鑑賞「高野切第一種」 				
	11月		2 仮名の筆使い					
	12月		3 平仮名の単体と変体仮名					
1月	三 漢字仮名交じりの書	1 いろいろな線による表現の広がり	<ul style="list-style-type: none"> ・線質の調和 (言葉や意図に合った表現を考える) ・紙、墨色、墨量、筆による変化と効果的な表現方法 ・字形、文字の大きさと全体構成 ・いろいろなバリエーションでの表現 					
2月		2 用具用材による表現の変化						
3月	四 生活の中の書	3 紙面構成のバリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・便せんの書式、葉書・封筒の書式 ・贈答用語の書き方 					
		4 創作						
学習方法	【予習】	書道用具を忘れないように確認しておきましょう。						
	【授業】	姿勢、執筆法に気をつけて、表現を工夫しながら意欲的に書いていきましょう。また、古典作品や友人の作品も参考にし、自己表現に生かしていきましょう。						
	【復習】	普段から身の回りにある書や手書き文字に興味をもち、学習に取り入れましょう。						
評価の観点・評価方法	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> ・書を愛好し、書写能力の向上に努める。 ・意欲的・主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・古典の書の美しさを感じ、その技法を学び、普遍性のある表現力を探求する。 ・字形や文字の大小、全体の構成など表現を工夫する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な線質の表現と用筆、運筆の関係を理解する。 ・用具、用材、線質、字形、全体構成などを工夫し、創造的な表現をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・書が生活の中で果たしている役割を理解し、書が社会生活の中で生かす工夫。 ・書よさや美しさを感じ取ることができる。 	
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末	
	※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A：主に調査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		作品点：6割 B：4割 Bは授業態度、提出物、授業準備等		作品点：6割 B：4割 Bは授業態度、提出物、授業準備等		1・2・3学期の平均	
備考								

書道Ⅱ

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	J①群
使用教科書	書道Ⅱ（東京書籍）			副教材等			履修 必履修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標		履修の条件・進路	
書道Ⅰと同様に「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」について鑑賞と臨書を中心にして学習していきますが、3学期にはその中の一つの領域を選択し、より深く学びます。また、書の歴史や文化についても理解を深めます。				<ul style="list-style-type: none"> 書の様々な表現について理解し、技法を習得する。 書の文化や伝統についての理解を深め、鑑賞力を身に付け、表現に生かせるようになる。 		・1年次に書道Ⅰを選択した人に限ります。	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	一 漢字仮名交じりの書	1 名筆・古典に学ぶ漢字と仮名の調和	<ul style="list-style-type: none"> 字形、文字の大きさ、余白を考えた紙面構成 「蘭亭序」に基づく表現 「牛楓造像記」に基づく表現 			
	5月		2 漢字の古典を生かした表現	<ul style="list-style-type: none"> 「粘葉本和漢朗詠集」に基づく表現 			
	6月		3 仮名の古典を生かした表現	<ul style="list-style-type: none"> 漢文や語句を選んだ後、そのイメージに合うように古典を選び、構成と書風を決め、用具用材を工夫して創作する。 			
	7月		4 漢字仮名交じりの書創作の手順	<ul style="list-style-type: none"> 「集王聖教序」 運筆のリズムとバランス 「書譜」 運筆の変化・抑揚 「書譜」 隷書を用筆法と字形のとり方 「礼器碑」「敦煌漢簡」 書を用筆法と字形のとり方 「石鼓文」 印のまとめ方、生活の中の刻字 用具、用材の特性とその選択による表現効果 			
	9月	○川高祭に向けて	・川高祭出展作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> 作品の構想を練る（臨書か創作か、語句と書体の選定、作品の規模、全体構成など） 作品制作、作品の完成と落款 展示準備 仮名の書風の変遷 			
	10月	三 仮名の書	1 仮名の美の展開	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名・変体仮名・片仮名 			
	11月		2 連綿・変体仮名の用筆	<ul style="list-style-type: none"> 連綿による文字の表現の変化とつなげ方の工夫 			
	12月		3 仮名一覧表	<ul style="list-style-type: none"> 字形や連綿、墨継ぎの妙を観察、臨書 			
	12月		4 行書き・散らし書き	<ul style="list-style-type: none"> 「関戸本古今和歌集」「十五番歌合」「継色紙」 用具、用材の特性 とその選択による表現効果 			
	1月	○書を深める	・領域をしぼり、書の深化をはかる	<ul style="list-style-type: none"> 「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」の中から自分の追究したい領域を選択 各領域から古典作品を選び、臨書をする。（「漢字仮名交じりの書」については漢字古典から） 創作 作品の発表と批評会 			
	2月						
3月							
学習方法	<p>【予習】 書道用具を忘れないように確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 表現を工夫しながら意欲的、主体的に書いていきましょう。また、古典作品や優れた作品をしっかり鑑賞しましょう。</p> <p>【復習】 自主制作する上では、普段から課題意識をもって、様々な作品等に触れておきましょう。また、臨書や創作作品を学園祭や県内外の公募展へ出品したりもします。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> 書を愛好し、書の文化や伝統について理解を深める。 意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わう。 		<ul style="list-style-type: none"> 感性を働かせて、様々な書の鑑賞の学習を通して自身の表現活動に生かしている。 		<ul style="list-style-type: none"> 創造的な表現をするために、表現材料や表現形式を選択し、創意工夫のある書の技能を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 書の歴史や文化について理解し、書的美を分析的、総合的にとらえ、その良さや美しさを深く味わい、自己の創造活動に生かすことができる。
	※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期 作品点：6割 B：4割 Bは授業態度、提出物、授業準備等		第3学期 作品点：6割 B：4割 Bは授業態度、提出物、授業準備等		年度末 1・2・3学期の平均
備考							

書道Ⅲ

総合学科

教科	芸術	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	S①群	
使用教科書	書道Ⅲ（東京書籍）			副教材等			履修	必履修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
書道Ⅰ、Ⅱで学習した内容を踏まえ、「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」の鑑賞と臨書を主体的に学習していきます。その中から自分のテーマを設定し、自主活動を通し、より深く表現能力・技術・鑑賞力を高めていきます。				<ul style="list-style-type: none"> 書道に対する興味・関心を深め、主体的に表現し、技法を習得する。 書の文化や伝統についての理解を深め、表現力・鑑賞力を一層高め、その喜びを味わう。 			<ul style="list-style-type: none"> 2年次に書道Ⅱを選択した人に限ります。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	一 漢字仮名交じりの書	1 用具用材による表現工夫	<ul style="list-style-type: none"> 用具、用材の特性とその選択による表現効果 字形、文字の大きさ、余白を考えた紙面構成 古典の書風研究から漢字仮名交じりの書への応用（仮名主体の表現・漢字主体の表現） 「思い」を「ことば」にし、「自分らしい表現」へ 				
	5月		2 紙面構成について考える					
	6月		3 名筆の鑑賞と表現への応用					
	7月		4 自分自身の表現を求めて					
	7月	二 漢字の書	1 書体の変遷	<ul style="list-style-type: none"> 書の歴史を学ぶ 				
	9月		2 古典の鑑賞と臨書（楷書・行書・草書）（篆書・隸書）					
	10月	三 仮名の書	3 篆刻	<ul style="list-style-type: none"> 楷書・行書・草書の基本用筆と特徴の理解、臨書 篆書・隸書の基本用筆と特徴の理解、臨書 成語（語句や詩文）印の作成 古典の表現を生かした少字数の創作 				
	11月		4 半紙から始める創作					
	12月		○川高祭に向けて					
	1月	○卒業制作 ○鑑賞	1 仮名の書風	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の書風の変遷 字形や連綿、墨継ぎの妙を観察、臨書 見て楽しい仮名表現 俳句の一行書き 				
	2月		2 古筆の鑑賞と臨書					
3月	3 現代の仮名表現							
4月	4 仮名の創作	<ul style="list-style-type: none"> 自主制作 	<ul style="list-style-type: none"> 「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」「篆刻」の中から自分の追究したい領域を選択 創作 作品の発表と批評会 					
学習方法	<p>【予習】 書道用具を忘れないように確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 表現を工夫しながら意欲的、主体的に書いていきましょう。また、古典作品や優れた作品をしっかり鑑賞しましょう。</p> <p>【復習】 自主制作する上では、普段から課題意識をもって、様々な作品等に触れておきましょう。また、臨書や創作作品を学園祭や県内外の公募展へ出品したりもします。</p>							
評価の観点・評価基準・評価方法	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> 書を愛好し、書の文化や伝統について理解を深める。 意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わう。 		<ul style="list-style-type: none"> 感性を磨き、個性豊かな書の表現能力を高め、創造的な表現を工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> 個性的・創造的な表現をするために、表現材料や表現形式を選択し、創意工夫のある書の技能を身につけている。 		<ul style="list-style-type: none"> 書の歴史を尊重し、文化を深く理解し、書の美を分析的、総合的にとらえ、その多様性や美しさを深く味わうことができる。 	
※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	第1・2学期		第3学期		年度末			
	作品点：6割 B：4割 Bは授業態度、提出物、授業準備等		作品点：6割 B：4割 Bは授業態度、提出物、授業準備等		1・2・3学期の平均			
備考								

教科	音楽	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	P①群	
使用教科書	子供のためのソルフェージュ1 a (音友)			副教材等			履修	必修修・ 選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>聴く（聴音）、歌う（視唱）を中心とした活動を通して音楽表現の力を養います。 ○聴音・リズム、旋律、和声などの音楽の諸要素を聴取する。 ○視唱・読譜を習得し、正しく歌唱する。基本的に個人レッスンの形態をとりますので、一人一人の習熟度の程度に応じた授業を行います。</p>				<p>・楽譜の基礎が理解できる。 ・リズム、旋律、和声を正確に聴き取ることができる。 ・正しい読譜、記譜ができる。 ・読譜をし、音程、リズムを正しく歌唱できる。</p>			<p>・音楽Ⅰを履修した生徒に限る。（1年次、2年次どちらで履修していてもよい。） ・音楽関係の進路を検討している生徒を対象としています。</p>	
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	・リエゾン ・歌唱 ・視唱 ・聴音	<ul style="list-style-type: none"> ・楽典（楽譜の基礎） ・発声 ・四分の四拍子 ・四分音符と四分休符 ・二分音符と二分休符 ・全音符、全休符 ・付点二分音符 	<ul style="list-style-type: none"> ・音符の名称、長さ、拍子、リズム、記譜法 ・呼吸法、発声 ・リズム練習 ・音程2度、3度 ・音域c～g ・音程完全4度まで、音域h～a ・音程6度まで、音域h～c ・リズム練習 ・楽典（調子） ・リズム練習 ・弱拍に八分休符 				
	5月							
	6月							
	7月		<ul style="list-style-type: none"> ・四分の二拍子、八分音符 ・八分休符、付点四分音符 					
	9月	・視唱 ・聴音	<ul style="list-style-type: none"> ・四分の三拍子 	<ul style="list-style-type: none"> ・音程8度、 ・音域h～d ・八分音符、休符なし ・リズム練習 ・小節を越えるタイ ・リズムの混合 ・シンコペーション 				
	10月							
	11月							
	12月		<ul style="list-style-type: none"> ・八分の三拍子 ・八分の六拍子 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム練習 ・楽典（移調、調判定） 				
	1月	・視唱 ・聴音 ・視奏	<ul style="list-style-type: none"> ・八分の三拍子 ・八分の六拍子 ・ピアノによる視奏 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム練習、シンコペーション ・弱起 ・奏法 				
	2月							
	3月							
学習方法	<p>【予習】 リズムの確認や基本的な楽典は分かるようにしておいてください。 【授業】 ソルフェージュは音楽表現の基礎能力を身に付けさせる科目であるため、授業の中で頻繁に実技（聴音、視唱）の確認テストを行います。 【復習】 実技は個人練習が必要な場合があります。時間内に習得できなかった内容は個人で十分練習しておいてください。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽学習に取り組もうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。 	
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期 実技点：8割 B：2割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度（発表等）、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		第3学期 実技点：8割 B：2割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度（発表等）、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		年度末 1・2・3学期の平均	
備考	評価の実技点は、聴取力、記譜能力、読譜力、視唱力、視奏力を総合的に評価する。							

器楽

総合学科

教科	音楽	単位数	3単位	対象	3年次	選択群	M群	
使用教科書	誰でもできる編曲入門			副教材等	ソナチネアルバム（全音）		履修 必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路		
ピアノを中心に器楽に関する専門的な学習を通して、楽譜の内容を理解し、表現するための基礎的な技術力・読譜力を身に付け、伴奏付けの基礎理論を学びます。			・楽器の独奏ができるようになる。 ・簡単な伴奏付けができるようになる。			・入試等で音楽的な内容が必要になる生徒 ・卒業後の進路で楽器の演奏技術が必要になる生徒		
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容				
	4月	・リエンテーション ・器楽	・独奏曲	・読譜と指使い ・練習と確認を繰り返します。				
	5月			・バイエル、ツェルニー、バッハ、シューマン等から自分に合った曲を選択して練習します。				
	6月							
	7月							
	9月	・器楽	・編曲法	・伴奏付けの基礎				
	10月			・伴奏付けと試奏				
	11月			・和声の基礎				
	12月							
	1月	・器楽	・独奏曲	・発表、鑑賞会				
	2月							
	3月							
学習方法	全て実技の授業になります。備考欄にもありますが、授業の時間だけでは十分な練習ができません。必ず個人練習のできる環境を整えておいてください。授業は集団レッスンの形式をとります。							
評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	・音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽学習に取り組もうとする。		・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。		・創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。		・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。	
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		第1・2学期 実技点：9割 B：1割 実技点は普段の練習姿勢や演奏レベルから評価します。		第3学期 実技点：9割 B：1割 実技点は普段の練習姿勢や演奏レベルから評価します。		年度末 1・2・3学期の平均	
備考	1週間に3時間の授業、長期休業をはさんでの練習では十分な技術が得られません。継続して個人練習のできる時間と場所を確保してください。家にピアノがない場合は学校のピアノを利用することもできます。必ず事前に相談するようにしてください。（ただし、台数に限りがあります）							

素描

総合学科

教科	美術	単位数	2単位	対象	3年次	選択群	S①群
使用教科書	スーパー鉛筆デッサン (グラフィック社)			副教材等			履修 必履修・ 選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
鉛筆や木炭をはじめ、各種のさまざまな描画材料を用いて、基本的な幾何形体や静物、石膏像等をモチーフに、デッサンやクロッキーのような素描活動を幅広く行います。			<ul style="list-style-type: none"> 対象を観察し、素描によって物体を的確に表現することができる。 形を正確に捉えたり、明暗の微妙な変化を表現することができる。 技術の習得とともに、対象物の内面を追求する姿勢を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> 美術系に進学希望者を始め、入試でデッサンを必要とする生徒に履修を勧めます。 設備の関係で10名程度とします。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	・デッサン (鉛筆)	・素描の学習と意義	・デッサンの形、明暗、構図			
	5月		・鉛筆によるグラデーション	・デッサンのために用いる道具の使い方			
	6月		・幾何形体を描く「四角柱」	・直線による表現をする			
	7月	・鑑賞	・幾何形体を描く「円柱」	・明暗と面の形、角度をとらえる			
	8月		・幾何形体を描く「円」	・曲線による表現と、奥行きをとらえる			
	9月	・鑑賞	・完成作品の鑑賞	・球面の明暗と奥行きをとらえる			
	10月		・自身の作品の紹介・批評				
	11月		・デッサン (鉛筆)	・石膏像を描く ミロのヴィナス「角」	・細部ではなく大きな全体の形をとらえる		
	12月	・デッサン (鉛筆)	・石膏像を描く ミロのヴィナス「丸」	・構図を決め、画面いっぱいに描く			
	1月		・着色デッサン 静物	・鉛筆を利用し、角度・長さ・比率を計る			
	2月		・モチーフのスケッチ	・空間の表現を理解する			
	3月	・鑑賞	・色を加える	・塗り重ねて厚みを出す			
4月	・仕上げ、相互鑑賞						
5月	・デッサン (木炭)		・自画像を描く	・鉛筆による表現の応用を理解する			
6月	・鑑賞	・これまでの作品を振り返って	・バックや構成要素の工夫をする				
7月		・自身の作品の紹介・批評	・仕上げ、相互鑑賞				
8月		・素描の1年を振り返る	・自身の作品の紹介・批評				
9月	・まとめ	・1年間の反省と感想					
学習方法	<p>【予習】 日頃からよく身の周りのものを観察してみましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き理解して、制作に取り組みましょう。全神経を集中してデッサンしましょう。</p> <p>【復習】 作品を振り返りながら、ポイントを整理しておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解			
	・デッサンの多様な表現方法に関心を持ち、試行錯誤や創意工夫によって効果的に表現を構想しようとしているか。	・多様な表現形式の特質を理解し、面や質感を意識し、塊や量感、バランスやムーブメント等の要素を理解し描写しているか。	・形や色彩、構想の美しさや表現方法を考え、技法や用具を活用して表現効果を考えた構成をしているか。	・作品の特徴や表現の工夫から、特性や個性の美しさを深く味わい、様々な観点から鑑賞できているか。			
	評価方法 ※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A：主に考查による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	第1・2学期 実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。	第3学期 実技点：7割 B：3割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。	年度末 1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価します。			
備考							